

6-1

全国の小学生の中で虫歯の人ほどのくらいいますか？また歯のどの部分が虫歯になりやすいですか？

- ・全国の小学生の中で虫歯の人について

日本国民の歯の状態を調べるには、「歯科疾患実態調査」を参考にすることが多いです。この調査は厚生労働省が、国民の歯やその周辺の保健状況を把握し、歯の健康を保つ資料を得ることを目的とし、5年に一度調査しています（平成23年以前は6年に一度）。公表されている直近のデータは、平成28年度版となっており、少し古いですがこちらのデータから要約をまとめたいと思います。

年齢	調査人数	虫歯のある人	割合
6	44	20	45.5%
7	34	13	38.2%
8	43	26	60.5%
9	32	23	71.9%
10	22	8	36.4%
11	32	11	34.4%
12	29	3	10.3%
合計	236	104	44.1%

（平成28年歯科疾患実態調査より抜粋）

各年齢では表のとおりで、6歳から12歳合計では、236人中、104人（44.1%）の人において虫歯があるという結果となっています。これは、虫歯の治療の済んでいる人、治療の済んでいない人も含まれます。

参考までに、年次推移をみてみます。

H5	H11	H17	H23	H28
87.4%	71.9%	58.5%	45.9%	10.3%

（平成28年歯科疾患実態調査より抜粋）

この表は、各調査年次における12歳児のむし歯のある人の割合です。平成5年の調査（87.4%）から調査を進めるごとに減少し、平成28年の調査では10.3%まで減少しています。12歳児において、むし歯のある人が少なくなっていることがわかります。これは他の小学生の年代も同様です。

また、港区では平成29年の歯科健診で、小学生のむし歯のある人の割合は41.43%となっております（参考：港区の学校統計 平成29年度版）。

・虫歯のなりやすいところについて

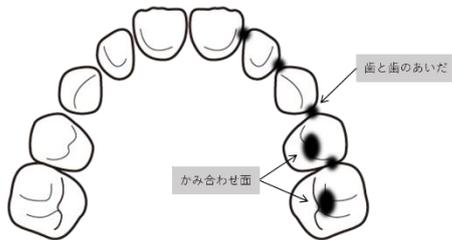
虫歯のなりやすいところは、年齢層によっても少し異なりますが、小学生等の若い世代のむし歯のよくなりやすい場所については、

① 歯のかみ合わせ面

上下の歯がかみ合うところのむし歯で、小学生に一番多い場所です。汚れがたまりやすい場所です。

② 歯と歯の間

歯と歯の間については、となり同士、ぶつかっているところで、歯ブラシがとどきにくいので、むし歯になりやすいです。



このほかにも、歯と歯ぐきの境目にもむし歯ができることもあります。

以上のように、むし歯になりやすい場所は、歯ブラシがとどきにくく、汚れのたまりやすいところといえます。

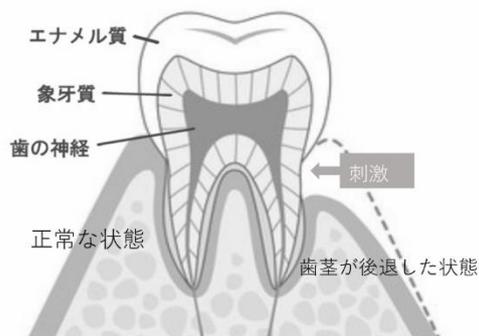
6-2

知覚過敏はどうしたらなりますか？また、なおす方法はありますか？

歯がしみる原因には、虫歯や歯が欠けている等によるものに加えて、知覚過敏があげられます。

知覚過敏は、病気を原因としない、歯がしみる状態をいいます。主に成人以降の方がかかり、小学生がかかることはまれです。

まず、歯の構造をみてみます。下図のように歯は中心部に神経があり、その周りを象牙質と呼ばれる刺激を通す部分があり、その周りをエナメル質と呼ばれる硬い部分でおおわれています（歯冠部のみ）。正常な状態では象牙質は歯ぐきの中に隠れています（図の左側）。しかし、歯周病や歯並びなど、何らかの原因で歯ぐきが後退し、エナメル質にかこまれていない象牙質が露出等してしまうと（図の右側）、直接象牙質に刺激が加わり、神経が反応して痛みを感じてしまうことを知覚過敏といいます。



なおす方法については、刺激をとめるため、専用の塗り薬や歯磨き粉などを使用することがあります。また、知覚過敏は一時的なことも多く、削ったり、詰めたりと積極的な治療は行われないことが多いです。